



# 南小だより さわやかなあいさつ 明るい教室 きれいな学校

学校教育目標「心豊かにたくましく生きる児童の育成」

平成28年11月30日

かしこい子 やさしい子 たくましい子

第10号

今月の生活目標 「物を大切にしよう」

川越市立高階南小学校

## おかげさま・もったいない・ありがとう

新井 啓太郎

今年も残り僅かとなりました。感謝の心で、1年間を振り返ってみたいと思います。『おかげさまで』本校の教育活動に、今年もたくさんの保護者の皆様・地域の皆様にご協力をいただきました。運動会などの大きな行事から、日々の授業のお手伝いをしていただく学習支援ボランティア、登下校時の安全支援ボランティア、学校環境整備まで、本校児童のために快く引き受けてくださり、本当にありがとうございました。おかげさまで、今年もよい1年の締めくくりができそうです。

また、子どもたちにとって、学校の教育活動に勝るとも劣らない大変貴重な体験となっているのが、「どんちゃらまつり」や「ドッジボール大会」「七町合同盆踊り」「七町合同ファミリー運動会」「秋祭り」等です。独立行政法人国立青少年教育振興機構の「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」によると、子どもの頃に地域活動を多く経験した子は、経験が少ない子より職業意識が約2倍高くなるそうです。(経験が少ない子24.2% → 経験が多い子44.7%) ニートや引きこもりが社会問題になっている今日ですが、児童が参加して楽しめる、これだけたくさんの地域活動を行っているところはあまりないと思います。地域の皆様のおかげさまで、本校の児童は本当に幸せだと思います。今後も学校の教育活動と地域の活動を通して、本校の子どもたちに社会で自立できる「生きる力」を育てていけたらと思っています。

『もったいない』私自身ずっと気になっていることがあります。それは、給食の残飯の量が増えていることです。給食の残飯の量が増えていることについては、以前から問題になっていますが、その量は大変なことになっています。昔は家畜のえさにした時代もあったようですが、今は全てゴミとして処分されています。パンを例に挙げると、特に夏場の食べ残しが多く、封を切っていない状態のパンが、多いときにはクラスの半分の人数分捨てられることもあります。ご飯や大食缶、小食缶の食べ物も例外ではありません。食物アレルギー等で、食べられない児童はやむを得ませんが、そうでない子の理由を見てみると、偏食や好き嫌い、食欲がない等です。献立等によっても差はありますが、食べられるものを捨てているのが現状です。

環境分野でノーベル平和賞を受賞したケニア人女性ワングリ・マータイさんは、日本に来日した際『もったいない』という日本語に感銘を受け、『もったいない』精神を、世界共通語「MOTTAINAI」として広めるキャンペーンまで行っています。外国人の方でさえ感銘を受けるほどの『もったいない』という言葉も、日本人として、もっともっと大切にしていかなければと思っています。

『ありがとう』5つの「あ」が大切だとよく言われています。その中の一つ「あいさつ」では、自分からはっきり、おはようございます、ありがとうございます、お願いします、失礼します、すみません(ごめんなさい)



(修学旅行 戦場ヶ原・男体山)

が言えることが大切です。本校でも{さわやかなあいさつ 明るい教室 きれいな学校}を合言葉に、元気なあいさつができるよう取り組んでいます。これから、年末年始を迎えるわけですが、年末に家族と1年を振り返ったり、新年にたくさんの人と出会ったりする中で、感謝の「ありがとう」が進んで言える子になってほしいと願っています。残りの4つ「安全」「安心」「集まり」「後始末(整理整頓)」も大切にしてください。

おかげさまで、よい1年を過ごすことができました。ありがとうございました。

